

***** 平成6年度 文化庁芸術祭参加 *****

創立10周年記念

COLLEGIUM MUSICUM TOKYO

主宰 小林 武史

Violin

小林 武史

Viola

福本 とも子

Contrabass

猪股 研介
杉原 茂範

Flute

福原 信男

Oboe

本間 正史

Fagotto

近藤 寿行
岡本 正之

Horn

田中 正大
斎藤 喜彦

Trumpet

福田 善亮
小林 好夫

Trombone

小田桐 寛之
郡 恭一郎
井上 順平

Percussion

有賀 誠門
榊原 千菜
長谷川 友紀

Conductor

高橋 直史

コレギウム・ムジクム東京 第20回 演奏会

1994年10月7日(金) 7:00pm

中央会館

助成協賛: **Asahi** アサヒビール芸術文化財団

日本演奏連盟・山田康子基金による助成コンサート

小林武史 主宰
COLLEGIUM MUSICUM TOKYO
コレギウム・ムジクム東京

…… 創立10周年記念 ……

第20回 演奏会

～新たな協奏作品の可能性を求めて～

— ∞ PROGRAMME ∞ —

- ◇ 沢田 博 (1994) : <風の歌 第2番> ファゴットと
室内オーケストラのための〔委嘱初演〕
Hiroshi Sawada : <2^{ème} Chant du vent> — pour basson
et l'orchestre de chambre

Allegro Moderato

Andantino quasi Allegretto

Allegro vivace

ファゴット独奏 近藤 寿行

- ◇ アドルフ・シェルバウム (1965) : ヴァイオリンと独奏楽器の
ための協奏曲〔世界初演〕

Adolf Scherbaum : Konzert für Violin und
Solisten Orchester

Largo

Largo

ヴァイオリン独奏 小林 武史

* * * * *

- ◇ 林 輝 (1994) : 独奏ヴィオラと管楽器, 打楽器のための
「ARJUUNA-TAPA」〔委嘱初演〕

Teru Hayashi : 「ARJUNA-TAPA」 for Viola solo,
Wind instrument and Percussion

Andantino molto con fuoco

Adagio misterioso

ヴィオラ独奏 福本 とも子

Fri. October 7th 1994 7:00pm. CHUO-KAIKAN

独奏者・作曲家



小林 武夫

Takeshi KOBAYASHI (Violin)

鈴木鎮一氏に師事。1949年第18回毎日音楽コンクール・ヴァイオリン部門第1位。東京交響楽団、ブルーノ国立フィルハーモニー、リンツ・ブルックナー交響楽団、読売日本交響楽団の各コンサートマスターを歴任。国内のみならず海外での演奏活動も精力的に行ない、国際交流基金の派遣で、アジア各国、中近東諸国、南米5ヶ国でリサイタルを開催。またヨーロッパ各国での国際音楽祭等にソリストとして招聘され、常に高い評価を得ている。昭和63年度文化庁芸術祭賞受賞。才能教育研究会理事。コレギウム・ムジクム東京を主宰。中国・武漢市音楽院客員教授。中新田町パッハホール音楽院院長。



近藤 寿行

Toshiyuki KONDO (fagotto)

東京芸術大学器楽科卒業。フルートを吉田雅夫氏に、ファゴットを三田平八郎氏に師事。その後ウィーン音楽演劇アカデミー(現ウィーン音楽大学)ファゴット科卒業。カール・エールベルガー、カミロ・エールベルガー両教授に師事。1973年より17年間在職したNHK交響楽団を1991年に定年退職。東京でリサイタル5回(昭和49年度では芸術祭優秀賞受賞)。レーヌ・フラシヨール女史とのジョイント・リサイタル、他ソロ、コンチェルト、室内楽、放送、レコーディング等多数。21回目を迎えるソリスト・コンサート、20回目を迎えるコレギウム・ムジクム東京各同人。軽井沢サマーミュージック・スクール講師。



福本 とも子

Tomoko FUKUMOTO (Viola)

東京芸術大学音楽学部卒業。その後ザルツブルク・モーツァルテウム国立音楽大学に留学。ヴァイオリンを故東儀祐二氏、岩崎洋三氏に、ヴィオラとヴィオラ・ダモーレを故浅妻文樹氏、Dr.ハインツ・クラッシュルに師事。卒業後、東京都交響楽団に入団。オーケストラ活動のかたわら室内楽活動を活発に続ける。82年には豪日音楽交流でシドニー交響楽団交換楽員として演奏活動を行う。87年東京都交響楽団を退団、フリーランス奏者としての活動を開始。リサイタルシリーズ「ヴィオラの楽しみ」を6回開催。また多くの演奏会、放送に出演するなどソロ、アンサンブルの活動を活発に続けている。上野学園大学、沖縄県立芸術大学非常勤講師。

澤田 博 Hiroshi SAWADA

1949年大阪生れ。73年東京芸術大学卒業。76年同大学院修了。88年「深尾須磨子生誕100年音楽祭作曲コンクール」(兵庫県永上郡春日町)に於て、最優秀賞と優秀賞を受賞。現在奈良佐保女学院短期大学助教授。関西現代音楽交流協会、日本作曲家連絡会議、グループ「中(そう)」、Clé de sol, Sé. 日本音楽教育学会、所属。

〈主要作品〉 女声合唱曲「まほろし源氏抄」(詩・釋道空)、歌曲「ふるさと」、「摘んだのは」(詩・深尾須磨子)、「風景とオルゴール」、「鳥」(詩・宮澤賢治)、重唱曲集「風鈴の子守歌」、「どろんこまるめて」(詩・吉村比呂詩)、ピアノ小曲集 I・II、管絃楽のための「連鎖」、*élégie* II—ピアノとチェロのための—、*espace-temps* I—ヴァイオリン、チェロとピアノのための—、オーボエとピアノのための「風の歌」、マリンバのための「木の歌」、反影 VI—バスーンのための—

林 輝 Teru HAYASHI

1942年生れ。和声学、対位法を石桁真礼生氏、飯田隆氏、水野忠夫氏に師事。管絃楽法、作曲法を團伊玖磨氏に師事。

〈主要作品〉 1976年ピアノの為の「ソナチネ」第20回全国学芸コンクール第1位入賞。高野日本教育TV社長賞受賞。80年管絃楽の為の「ステイクス」。92年ヴァイオリンとピアノの為の「マダガスカル之夜」。92年女声合唱曲「さくら」笹川賞第1位入賞。93年独奏フルートの為の「三輪山」。94年独奏二胡の為の「茶仙女」。

曲目解説

結成から10年！ 第20回を迎えて

「経済的利益は全く念頭に置かず、音楽そのものだけを狙った」室内楽グループとして『コレギウム・ムジクム東京』が第1回の演奏会を開いたのが1984年5月13日のことだった。以来、年に2回のペースで（4回が目標だったが、経済的なことから予定の半分しか開催できなかった）演奏会を開いて、ついに10年目、第20回を迎えた。よくも今日まで続けられたものだと、主宰者 小林武史氏の執念とも言える努力に感服するばかりである。

コレギウムの活動は、未知の室内楽曲や協奏曲を紹介するということを柱に進められてきたが、記念すべき今回はその両者が合体したような曲目が並べられた。と言うのも、演奏される3曲ともがいわゆるオーケストラではない室内楽編成と独奏による協奏的な作品なのである。このように、従来はあまり見られなかった協奏作品は、まさに「新たな協奏作品の可能性を」追求するという、意義深いコンサートになることだろう。

ここで、協奏作品の代表ともいえる協奏曲（コンチェルト）というものをざっと見ておくことにする。

コンチェルト（競奏曲、司伴奏などの訳語が使われたこともあった）を定義付けると“独奏と合奏群とを対比させた器楽作品”ということになるが、バロック時代初期には声の入ったコンチェルトや独奏部のないコンチェルト・シンフォニアといった楽曲名も見られ、上記の定義は古典派以降の協奏曲のものともいえる。そして20世紀の中頃になると、バルトークやルトスワフスキによって「オーケストラのための協奏曲」といった独奏部のない協奏曲が書かれる。一方、コンチェルトの語源はイタリア語の「一致させる」という説とラテン語の「競いあう」という説がある。この両者、意味は正反対ではあるもの“二つのものが在る”ということでは無縁のものではないのかも知れない。

バロック時代にヴィヴァルディが500を越すコンチェルトを書き、J.S. バッハを経てモーツァルト、ベートーヴェンへと受け継がれて、先の定義にあるような協奏曲ができ上がった。そして21世紀を目前にした今夜、オーケストラを伴わない室内楽協奏曲とでもいうべき作品が3曲も初演されることは、今後に書かれる協奏作品の大きな指針になると思われる。

* * *

■ 沢田 博 (1949～) : <風の歌 第2番> ファゴットと室内オーケストラのための (1994, 委嘱初演)

10年の歴史をもつ「コレギウム・ムジクム東京」の第20回演奏会に作品を書いてみないか、と小林武史先生からお話を頂いたのが93年3月のことでした。それもファゴットを主役にした協奏的スタイルのものを、と言われ非常に興味を覚えてすぐにお受けしました。

ファゴットには余り馴染みがなかったのですが、今回のソリスト近藤寿行氏には御宅にまで伺って奏法やら音色やら懇切に教えて頂き、<風の歌 第2番>の演奏に関しても貴重な提言を頂戴しました。氏の協力、というより協同作業の結果この作品が生れてきたと感謝しております。

曲は3つの楽章から成る協奏曲の形で出来ています。第1楽章は、アレグロ・モデラートの導入部、ファゴットのカデンツァを経てソナタ形式の主部に移ります。

第2楽章は、子守歌の雰囲気をもつアンダンティーノ・クワジ・アレグレット。弱音器をつけたトランペットのメロディをファゴット

が伴奏します。後半にチェレスタが登場して彩りを増していきます。

第3楽章は、アレグロ・ヴィヴァーチェ。ロンド形式によるフィナーレ。ファゴットによるロンド主題の呈示で開始され、全部の楽器が様々に活躍した後、短いカデンツァをはさんでトゥッティで終わります。

*

■ アドルフ・シェルバウム (1931～) : ヴァイオリンと
独奏楽器のための協奏曲 (1965, 世界初演)

1931年にウィーンで生まれたA. シェルバウムは、小学生の頃から作曲に親しみ、ウィーン国立アカデミーでルートヴィッヒに学んだ。作曲と同時にフルートをレズニチュックに師事して、卒業後はウィーン・オペラ・スタジオ管弦楽団を経てリンツのブルックナー交響楽団のソロ・フルーティストとして活躍している。作曲家としてはオーストリアを代表する一人で、オーケストラ作品、協奏曲、室内楽曲などにさまざまなジャンルの作品を書き、オーボエ協奏曲やフルート協奏曲などが高い評価を得ている。

この作品は、小林武史氏がリンツ・ブルックナー響のコンサートマスター時代に彼のために作曲された。「楽器編成が変則的で、これまで演奏する機会がありませんでした。とても奏き難い曲で、音の性格を選んでわざと異端なものを求めた、と思われまます」(小林)という作品である。曲は2つの楽章からなり、ともにラルゴで始められている。

*

■ 林 輝 (1942～) : ヴィオラと管楽器、打楽器のための
「ARJUNA-TAPA」(1994, 委嘱初演)

世界最大の叙事詩「マハーバーラタ」に現実に触れたのは、5年前にインドを旅した時の事でした。この有名な叙事詩は、賢者「ヴァーサ」が心に浮んだ物語を智慧の神「ガネーシャ」が書きとったと記されていますが、実際には紀元前400年から紀元後200年に至る、約600年の間に、何人かの賢者が歴史的事実と民間口承伝説を織りまぜながら今日の形に仕上げられたと考えられます。物語は、「バードゥ」家と「クル」家の王子達による、「バーラタ王朝」内の争いを軸に、人間の普遍的なテーマである、愛、憎悪、争い、そして生き方の指針等を説きながら、又他方では奇想天外な、例えば『王子カルナ』は「太陽神」と「クシティー姫」の間に生れた子供であったりします。物語全体のクライマックスは「クルクシュートラ」の戦いです。この場所は首都ニューデリーの北方に位置するハリアナ州、今も同名の市と伝えられています。二度目のインドの旅はこの地を彷徨い歩いただけですが、この叙事詩に魅了され、悶々としていた時、小林武史先生の奨めで「ヴィオラ」の曲を書く事になり、しかも演奏者が、昨年「ソロ・ヴィオラリサイタル」で絶賛された福本とも子さんと聞いた瞬間、叙事詩の英雄「アルジュナ」王子を連想しました。「クリシュナ」神が王子に、武人(クシャットリア=武士階級)としての雄々しき教を説いた言葉は後に「バガヴァッド・ギーター」(神の歌)として今日も「ヒンドゥー」教徒の最高教典として知られています。この章を音で表現できないものか、とさらに今年1月インドネシアの「ジョク・ジャカルタ」や「ソロ」の街で影絵芝居を見て確めて来た結果が「アルジュナ・タパ」となりました。今宵は「ガメラン」音楽を御想像下されれば幸いです。

*なお、沢田、林両作品の解説は、御自身で書かれたものをそのまま掲載しました。

出演者

福原 信男 (Flute) 本間 正史 (Oboe) 岡本 正之 (Fagotto)
田中 正大 (Horn) 斎藤 喜彦 (Horn) 福田 善亮 (Trumpet)
小林 好夫 (Trumpet) 小田桐寛之 (Trombone) 郡 恭一郎 (Trombone)
井上 順平 (Trombone) 猪股 研介 (Contrabass) 杉原 茂範 (Contrabass)
有賀 誠門 (Percussion) 榊原 千菜 (Percussion) 長谷川友紀 (Percussion)
高橋 直史 (Conductor)

◎ 今回出演以外のコレギウム・ムジクム東京のメンバー

松井 直樹,	三浦 章宏,	奥田 雅代,	山口 裕之
豊嶋 泰嗣,	三上 徹,	生沼 晴嗣,	中山 洋
東 義直,	武田 信夫,	滝沢 達也,	大久保淑人
永野 雄三,	竹内 晴夫,	山田 雄司,	川崎 和憲
小野 富士,	大野かほる,	木越 洋,	秋津 智承
西田 直文,	宮本 明恭,	渡瀬 英彦,	伊達佳代子
浦 文彦,	佐竹 正史,	辻 功,	木立 至
三谷 真紀,	山本 正治,	長谷川真澄,	金井 信
磯部 周平,	川端 秀樹,	南川 肇,	松元 香
太田 茂,	大澤 昌生,	山本 真,	阿形 俊二
今井 彰,	関本 隆夫,	須山 芳博,	田中 晴之
中沢 浩士,	石津 成人,	稲葉 一郎,	海沼 正利
高西 康夫,	百武 由紀,	銅銀 久弥,	鈴木 良昭
大林 修子,	中竹 英昭,	津堅 直弘,	小島 葉子
森 明子,	手束 勝彦,	黒柳 紀明,	守田千恵子
田中みちる,	松本裕喜子,	丸山 勉,	富成 裕一
酒井 敏彦,	田中 裕,	井野辺大輔,	藤森 亮一
草刈 麻紀,	小森谷裕子,	鎌田 泉,	茂木 新緑
三戸 正秀,	篠崎 朝子,	井手 修三,	平田 昌平
細川 順三,	渡辺 克,	宮崎 和子,	潘 寅林
篠崎 史紀,	斎藤真知亜,	平尾 真伸,	高田はるみ
高橋 俊之,	梯 孝則,	松岡 陽平,	山本 裕康
新納 益夫,	山本 晴勇,	近藤 洋子	

● 演奏会記録

1 * 第1回演奏会 1984. 5. 13 同仁キリスト教会

ラインベルガー：九重奏曲 変ホ長調 Op. 139

プーランク：六重奏曲

メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲 変ホ長調 Op. 20

2 * 第2回演奏会 1984. 10. 20 三井生命ホール

モーツァルト：弦楽五重奏曲 ト短調 K. 516

マルティヌー：九重奏曲第2番 (1959)

シュポア：七重奏曲 イ短調 Op. 147

3 * 台湾公演 1984. 11. 26 台北市国父記念館

ラインベルガー：九重奏曲 変ホ長調 Op. 139

プーランク：六重奏曲

メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲 変ホ長調 Op. 20

* 台湾公演 1984. 11. 27 台北市国父記念館

平尾貴四男：木管五重奏曲

シューマン：ピアノ五重奏曲 変ホ長調 Op. 44

メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲 変ホ長調 Op. 20

4* 横浜公演 1985. 1. 26 神奈川県立音楽堂

ハイドン：弦楽四重奏曲 ハ長調 Op. 33-3 「鳥」
シューベルト：ピアノ五重奏曲 イ長調 D. 667 「ます」
ラインベルガー：九重奏曲 変ホ長調 Op. 139

5* 第3回演奏会 1985. 3. 4 ルーテル市ヶ谷センター

ボッケリーニ：弦楽五重奏曲- 口短調 G. 306
アイスラー：九重奏曲 第1番 <本邦初演>
ヴォルフ：イタリアン・セレナーデ (弦楽四重奏版) ト長調
クレメンティ：九重奏曲 変ホ長調 <本邦初演>

6* 第4回演奏会 1985. 9. 20 ルーテル市ヶ谷センター

モーツァルト：弦楽四重奏曲 変口長調 K. 458 「狩」
ブラームス：ホルン三重奏曲 変ホ長調 Op. 40
チャイコフスキー：弦楽六重奏曲 二短調 Op. 70 「フィレンツェの思い出」
シュポア：九重奏曲 ヘ長調 Op. 31

7* 第5回演奏会 1986. 4. 14 東京文化会館小ホール

<モーツァルトのタペ>
歌劇「バ스티アンとバスティエンヌ」序曲 K. 50
フルート協奏曲 二長調 K. 314 (宮本明恭)
ハフナー・セレナーデ 二長調 K. 250 (小林武史)

8* 第6回演奏会 1986. 10. 4 バリオホール

モーツァルト：交響曲 二長調 K. 161 & 163 (141a)
メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 二短調 (潘 寅林)
ベートーヴェン：七重奏曲 変ホ長調 Op. 20

9* 第7回演奏会 1987. 3. 30 バリオホール

ビスコーリ：トランペット、オーボエ、バスーンのための協奏曲 二長調
(津堅直弘, 小島葉子, 近藤寿行) <本邦初演>
モーツァルト：ケーゲルシュタット・トリオ 変ホ長調 K. 498
J. シュトラウス：円舞曲「春の声」, ピチカート・ポルカ, ポルカ「とんぼ」, 皇帝円舞曲

10* 信州国際音楽村公演 1987. 5. 29 ホール こだま

プーランク：ピアノと木管のための六重奏曲
マルティヌー：フルート・ソナタ (宮本明恭)
ラインベルガー：九重奏曲 変ホ長調 Op. 139

11* 京都公演 1987. 7. 12 青山音楽記念館バロックザール

イベール：木管五重奏のための3つの小品 (1930)
モーツァルト：フルート四重奏曲 二長調 K. 285 (宮本明恭)
ラインベルガー：九重奏曲 変ホ長調 Op. 139

12* 第8回演奏会 1987. 11. 8 サントリーホール (小)

モーツァルト：ピアノと木管のための五重奏曲 変ホ長調 K. 452
ハイドン：チェロ協奏曲 二長調 Op. 101 (木越 洋)
ブラームス：弦楽六重奏曲 変口長調 Op. 18

13* 中新田公演 1988. 1. 24 バッハホール

イベール：木管五重奏のための3つの小品 (1930)
メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲 変ホ長調 Op. 20
J. シュトラウス：喜歌劇「ジプシー男爵」より「入場行進曲」
J. シュトラウス：喜歌劇「こうもり」より「ロザリンデとアルフレッドの二重唱」
ウイナ・ワルツ & ポルカ集

14* 第9回演奏会 1988. 6. 28 サントリーホール (小)

ヒンデミット：管楽七重奏曲
モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第3番 ト長調 K. 216 (小林武史)
シェーンベルク：清められた夜 op. 4 (弦楽六重奏版)

15* 第10回演奏会 1988. 12. 13 サントリーホール (小)

スメタナ：弦楽四重奏曲第1番 ホ短調「わが生涯より」
ドヴォルザーク：スラヴ舞曲集より op. 72-1, 72-7, 46-8 (木管合奏版)
ヤナーチェク：弦楽のための組曲

16 * 第11回演奏会 1989. 4. 15 サントリーホール (小)

ハイドン：二重奏のソナタ 変ホ長調 (田中 裕, 新納益夫)
グリエール：8つの二重奏曲 Op. 39より (田中 裕, 新納益夫)
ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲 ヘ長調 Op. 96「アメリカ」
シューベルト：弦楽四重奏曲 二短調 D. 810「死と乙女」

17 * 第12回演奏会 1989. 11. 20 サントリーホール (小)

ブラームス：ピアノ三重奏曲第1番 ロ長調 作品8
ブレーバル：コンセルタント ヘ長調 (山本正治, 近藤寿行, 山本真)
シューマン：ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品44

18 * 第13回演奏会 1990. 3. 11 サントリーホール (小)

渡辺加津子 (編・構成)：「チャップリンの主題による」楽器紹介の
ための大序曲

// : On The Rag!

ストラヴィンスキー：兵士の物語 (日本語版台本：蜻蛉)

19 * 第14回演奏会 1990. 12. 14 津田ホール

マルティヌー：3つのマドリガル
ヘンデル (ハルヴォルセン編曲)：ヴァイオリンとヴィオラのための
パッサカリア ト短調
シューベルト：八重奏曲 ヘ長調 D. 803

20 * 第15回演奏会 1991. 6. 28 石橋メモリアルホール

ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲《糸杉》
テレマン：トランペットと2つのオーボエと通奏低音のための
協奏曲 二長調
モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第1番 変ロ長調 K. 207

21 * 第16回演奏会 1992. 6. 30 サントリーホール (小)

ショーソン：ヴァイオリンとピアノのための協奏曲 二長調
K. クロイツァー：大七重奏曲 変ホ長調

22 * 第17回演奏会 1992. 12. 8 津田ホール

ロッシーニ：弦楽のためのソナタ第1番
ドヴィエンヌ：ファゴット四重奏曲第2番 ヘ長調
シューベルト：ピアノ五重奏曲「ます」作品114

23 * 第18回演奏会 1993. 6. 28 津田ホール

カリヴオダ：ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲 第1番 八長調
ブーランク：ピアノ、オーボエとファゴットのための三重奏曲
トゥリーナ：闘牛士の祈り 作品34
フンメル：七重奏曲 二短調 作品74

24 * 第19回演奏会 1993. 12. 12 津田ホール

ヴィヴァルディ：弦楽のための協奏曲 二長調 F. XI 30
// : オーボエ協奏曲 二短調 F. VII-1
// : ファゴット協奏曲 ホ短調 F. VIII-6
// : 「四季」“和声と創意への試み”より
(小林武史, 篠崎史紀, 潘 寅林, 斎藤真知亜)